

令和5年度 標準的学力調査の結果

学校支援課

令和6年1月に実施した標準的学力調査（東京書籍版CRT）の結果をお知らせします。

1 各教科の平均正答率（％）及び標準スコアについて

※標準スコア…全国の平均正答率を50としたときに新潟市平均正答率がいくつにあたるかを換算した値

【中学校2年生・理科】

年度	平均正答率			標準スコア
	新潟市	全国	全国との差	
令和5年度	55.8	55.3	+0.5	50.2
令和4年度	49.0	51.3	-2.3	48.9
令和3年度	61.2	60.6	+0.6	50.3

【中学校2年生・英語】

年度	平均正答率			標準スコア
	新潟市	全国	全国との差	
令和5年度	48.8	50.1	-1.3	49.4
令和4年度	53.8	54.2	-0.4	49.8
令和3年度	48.2	46.9	+1.3	50.6

2 中学校2年生・理科の概要について

標準スコアをみると全国平均と同程度の結果で、問題全体に対して望まれる正答率（＝目標値）を越えた生徒の割合は56.1であった。

問題の類別にみると、「基礎問題」では全国平均をやや下回ったものの、「活用問題」では、全国平均を2.2ポイント上回った。

資質・能力でみると、「知識・技能」の観点では、全国平均を0.8ポイント下回ったものの、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」は、全国平均を

それぞれ1.8ポイント、2.2ポイント上回った。また、領域別に見ると「エネルギー」は1.6ポイント、「粒子」は0.2ポイント、「生命」は0.5ポイントそれぞれ全国平均を上回った。

3 中学校2年生・英語の概要について

標準スコアから全国平均と同程度の結果であるものの、昨年度に比べ、全国平均との差が広がった。

問題の類別にみると、全国平均と比べ「基礎問題」では1.8ポイント、「活用問題」では0.3ポイント下回った。

資質・能力でみると、「思考・判断・表現」の観点は全国平均と同じポイントであった。「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を0.5ポイント、「知識・技能」は2.6ポイント下回った。また、「書くこと」領域は全国平均と同程度であったが、「聞くこと」では2.9ポイント、「読むこと」では1.1ポイント下回った。

3 今後の対応について

理科、英語ともに全国平均と同程度の学力を維持しており、授業改善の取組は一定の成果をあげているといえる。今後、学力の向上を一層図るために、生徒一人一人の実態や興味・関心・意欲等を踏まえて、きめ細やかな授業展開を推進していく。

また、今回の結果を基に各中学校において成果と課題の分析を進めること、および、下の視点から授業改善を図ることを促す。

【理科】

○指導の個別化と家庭学習の充実によって知識・技能の定着を図る。

○仮説、計画、考察の過程で、生徒一人一人が既習の知識・技能を活用できるように働き掛けを工夫する。

【英語】

○自分の気持ちや考えを英語で表現する「言語活動」を増やす。

○聞いたり読んだりして理解したことや、話した内容を書くことにつなげる「領域統合型」の活動を行う。

この調査結果をもとに、授業改善の方向性を各学校に「学校支援課だより Support No. 7」として示しました。以下のURLやQRコードからご覧になれます。ご参照ください。

https://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/gakko_keikaku/support.html

